

# 山梨県ヨット連盟

## 沿革

### (1) 連盟創立までの歴史

山梨県のヨットのはしりは明治年間に、文豪大町桂月氏が籠坂峠を越えて山中湖に至るその紀行文に白帆一つ湖上に浮かぶと、長池の赤星別荘にスループ1隻があって、それを見て文筆を走らせ馬車で梨ヶ原を去った。その艇を倉庫から出したとき、昭和10年に試乗したが堅固なものだった。大正の終わりごろ、高村和十郎氏が三角帆を購入して試験をした。しかし、このころは競技ではなく、レクリエーションの域を出ていなかった。昭和9年に高村武雄現副理事長が6m級をつくり豪快に走り回ったものだった。

昭和25年8月15日、第1回の山中湖ヨットレースを開催した。

①関口実組(東大) 17点、②高木良男組(東大) 13点、③毛利組13点、④高村組(山中中学)

昭和26年8月11日、山中湖報湖祭ヨットレースに参加したのは15艇で、千葉医大、慶大、東大、地元など

創立 昭和39年2月16日

役員 名誉会長・古屋徳兵衛 会長・堀内光雄  
副会長・石沢羊一 理事長・羽田恒司  
副理事長・高村武雄

事務所 南都留郡山中湖村役場内

県体協へ加盟 昭和39年4月27日

(役員・事務所は昭和42年末現在)

であった。

昭和27～30年、この間に4回ヨットレースを開催した。

昭和31年8月10日、山中湖報湖祭ヨットレース

①S28号 石丸・大類組(慶大) ②A25号 奥野・津田組 ③A37号平島・大友組 ④I017号 今留・横井組(千葉医大) ⑤16号 古屋・加藤組 ⑥高村喜・清水組

昭和32年8月10日、第10回レースの参加は14艇であった。

①古屋徳・古屋静組 28点 ②東・西川組(千葉医大) 24点 ③横井・柳田組(千葉医大) 23点 ④須賀田・藤沢組(東大) 21点 ⑤細谷・

天野組(東大) 20点

昭和33年8月10日, 第11回レースの参加は20艇

①A81号 石川・塚田組(慶応) ②S11 益田・松沢組(東大) ③A55 天野・藤沢組(東大) ④A1059 藤村・渡辺組(千葉医大) ⑤ヨL 西川・渋谷組(千葉医大)

以下略すが, 毎年8月1日に山中湖ヨットレースを開催している。

## (2) 連盟設立

昭和33年9月11日, 山梨県ヨット協会設立準備会を南都留郡中野村役場に開いた。そのときの役員構成(案)は次の通りであった。

会長 堀内光雄, 副会長 石沢羊一, 理事長 坂本英俊, 副理事長 高村武雄, 理事 秋山三男ほか22名, 評議員 田口政義ほか28名, 幹事 高村寿ほか2名, 監事 中野村収入役, 事務所は中野村役場内に置く。(村名改め山中湖村となる)

昭和39年2月16日 第1回総会をホテルマウント富士に開き正式に発足した。

昭和39年4月27日 山梨県体協へ加盟承認さる。

昭和39年7月26日 連盟ヨット棧橋にてS級2隻, A級2隻の進水式を行なう。関係者多数参加す。初乗を北富士工高ヨット部員, 中沢初雄君ら13名。清水昭伯監督らと終日練習した。

昭和39年9月22日 第17回県体育祭ヨットレース(山中湖)雨天のため中止した。A級艇の名称を「雄飛」「芙蓉」また, S級艇の名称を「湖竜」「白鳳」と命名する。

昭和40年3月5日 関東ヨット協会へ正式に加盟する。

昭和40年6月19・20日 昭和40年度関東高校ヨット選手権大会が, 熱海市多賀湾で開催され, 北富士工高から監督藤田武男, S級選手は中沢初雄, 横山和男, 田辺信考, 外川幸二, またA級選手, 朝倉文仁, 古屋修一, 渡辺強, 羽田敏らが初参加した。その結果はA級は12位 27点(北富士工) S級は12位 26点(北富士工)

潮流とエアポケットに悩まされた初出場であった。

## (3) 国体へ初参加

昭和40年9月19~22日 第20回国体夏期大会ヨットレースは蒲郡で開催され, 30都県が参加した。

その結果, 高校スナイプ級総合16位65点 中沢・堀

内(北富士工), また29県参加の高校フイン級では28位27点 朝倉・渡辺(北富士工)の成績に終わった。

昭和40年9月26日 第18回県体育祭ヨットレースを山中湖明神前で開く。(大会委員長 羽田恒司)

高校A級 ①堀内・渡辺組(北富士工) ②朝倉・渡辺組(北富士工) ③古屋・星野組(北富士工)

一般A級 ①高村・高村組(山中) ②高村・坂本組(山中) ③猿田・野尻組(都留)

高校S級 ①中沢・外川組(北富士工) ②横山・田辺組(北富士工)

一般S級 ①高村・羽田組(山中)

郡市対抗総合成績は, ①南都留②都留の結果であった。

昭和40年9月29日 第2回総会を山中湖村役場で開き39年度収支決算及び事業報告, 40年度予算, 事業計画などを決めた。

昭和41年5月23日 第18回県高校総合体育大会ヨットレースを山中湖で開く。

S級 ①堀内巧・佐藤律夫(北富士工) 44.53.4

②渡辺正美・望月勉組(同)

A級 ①渡辺隆久・堀内直介(北富士工) 62.15.1

②渡辺一仁, 田辺文得(同) ③辻俊明, 井沢良一(同)

昭和41年7月28日 関東ヨット協会公認審判員講習会が, 岸記念体育会館301号室にて開かれ, 平田克己ルール委員長の解説及び質疑応答あり, 高村副理事長出席する。

昭和41年9月3~5日 第6回関東高校ヨット選手権大会(逗子市葉山, 鑑摺ヨットハーバー)北富士工高参加す。

S級 ⑫位18点 堀内巧・辻俊明組(北富士工)

A級 ⑬位17点 小俣哲・渡辺隆久組(北富士工)

昭和41年8月1日 山中湖報潮祭ヨットレースを山中湖で開く成績は次の通り。

S級 ① 堀内 巧・堀内真介組(北富士工)

③ 辻 俊明・渡辺正美組(同)

A級 ④ 渡辺隆久・田辺文得組(同)

⑤ 小俣 哲・渡辺一仁組(同)

なお, 2位, 6位は他県選手であった。

昭和41年9月18~21日 第21回国体夏期大会ヨット競技会は大分県北浜で開催された。

一般男子 スナイプ級 ⑨11点 羽田・田辺組

高校男子 スナイプ級 ⑨20点 堀内・辻組(北

富士工)

同      フイン級 ㊟15点 小俣 (北富士工)

なお監督は藤田武男 (高校S) 清水昭伯 (一般男子S) 篠原亨 (高校F) らであった。

昭和41年10月2日 第19回県体育祭 ヨット競技会 (山中湖) は台風26号 (足和田部落など被害続出した) の影響にて連盟さん橋も大破し、その結果、中止とする。

昭和42年4月1日より北富士工ヨット部トレーニング開始 (山中湖)

昭和42年4月20日 関東ヨット協会第3回理事会を岸記念体育会館301号室にて開き、そのあと、代議員会も開く。

昭和42年5月18日 関東ヨット協会理事会、岸記念体育会館、301号室で開く。

昭和42年5月21日 第19回県高校総合体育大会ヨットレースを山中湖ヨットハーバーで開催。

S級 ①田辺文得・萱沼茂組 (北富士工) ②渡辺・天野組 (同) ③堀内・後藤組 (同)

A級 ①羽田定造・小野勝組 (北富士工) ②望月・高村組 (同) ③渡辺・堀内組 (同)

ヨット部長河村三四郎、審判長高村武雄、審判員清水昭伯、藤田武雄、篠原亨など。

昭和42年5月26日 第4回関東ヨット協会理事会岸記念体育会館401号室にて開かる。